

令和7年度

千葉県自主防災組織リーダー研修会

実施報告書



千葉県マスコットキャラクター
チーバくん



令和7年11月26日（水）

共催／千葉県、一般財団法人 日本防火・防災協会

後援／総務省消防庁

I 実施概要

1 目的

この研修会は、自主防災組織の指導的立場にある者等を対象とし、防災に関する実践的な知識と技術を習得させることにより、地域における防災活動等の中心的役割を担う人材の育成を図り、地域防災力の強化に資することを目的とする。

2 日時

令和7年11月19日（水） 10時00分 から16時00分まで

3 会場

千葉科学大学 マリーナキャンパス （銚子市潮見町15-8）

【午前】5号館2階 5204教室

【午後】6号館1階 6102, 6103教室

4 参加者

自主防災組織役員等	35名
防災士	14名
消防団	3名
災害対策コーディネーター	2名
計	54名

5 研修内容

(1) 開会

開会に際し、千葉県防災危機管理部危機管理政策課地域防災支援室長から主催者挨拶を行う。また、千葉県の自主防災組織の現状について説明を行った。



(2) 活動事例紹介

ア 旭市防災資料館 宮本 英一 氏

旭市防災資料館の宮本氏から東日本大震災の体験談について講話いただきました。

被災当時の話だけでなく、当時自治会区長として対応した復興についてもお話いただきました。



イ 銚子市愛宕町第一町内会防災委員会委員長 保立 和則 氏



毎年実施している防災訓練による、地域防災力の向上、町内会向けに発行している防災だよりによる防災啓発活動などについて紹介がありました。

ウ 千葉科学大学学生サークル

日頃から防災活動に取り組んでいる千葉科学大学の学生サークルに活動事例を紹介いただきました。

いずれの団体も地域における防災訓練への参加、防災イベントへの出展などを行っており、受講者の方々も、自分たちの防災訓練に参加してもらえないか等、関心を示しており、今後の連携の契機となるような事例紹介となりました。

・ 学生消防隊



・ DRR*



* DRR (Disaster Response Research : 災害初動対応研究)

エ 銚子防災士会会長 信田 宗一 氏

自主防災組織や商業施設等と連携して実施している防災研修、防災訓練等の取組について紹介がありました。

そのほか、銚子市が実施している防災士資格取得費用の助成についても説明がありました。



オ 匝瑳市共興地区を守る会会長 宇野 富士夫 氏

東日本大震災における避難所の様子やそこでの課題について紹介がありました。

毎年、実施している防災訓練はマンネリ化、形骸化を防ぐために内容を変えて様々な訓練を実施していること、また、社会福祉協議会と連携した避難行動要支援者等の支援にかかる取組について紹介がありました。



カ 旭市干潟学区自主防災会会長 常世田 正樹 氏

他の自治体等への研修視察を行い防災意識の向上を高めているほか、若い世代の防災意識を維持するために、防災だよりは区民への配布にとどまらず、小学校、幼稚園や保育園において全児童へ配布を行っている、と紹介がありました。



(3) 講演：協働型の自主防災組織による地域防災力の強化

講師：千葉科学大学 学長 藤本 一雄 氏

千葉科学大学の藤本学長から、過去の災害被害状況、(主に地震・津波)千葉県において気を付けるべきこと、対策しておくべきことを説明いただきました。

また、地域防災力の向上のため、自主防災組織に求められていること、自主防災組織の活性化、若年層の参画のための工夫などを紹介いただきました。

<p>令和7年度千葉県自主防災組織リーダー研修会 (日時：2025年11月19日、場所：千葉科学大学)</p> <h2 style="text-align: center;">協働型の自主防災組織 による地域防災力の強化</h2> <p style="text-align: center;">千葉科学大学 藤本 一雄</p>	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none">過去の災害から得られた教訓や先行研究の知見を踏まえると、今後の自主防災組織が目指すべき姿は、従来の「統制型」から、立場や組織の違いを超えて互いの強みを活かし合う「協働型」への転換です。自主防災組織のカバー率が依然として低い千葉県においては、壮年層(+子ども)を巻き込んだ防災イベントの実施や、女性・若年層の積極的な参画を通じて、「顔の見える関係づくり」を進めることが重要です。こうしたつながりを基盤として、住民一人ひとりの判断が求められる実践的な防災訓練を重ねるとともに、それぞれの立場や経験などの強みを活かした備えに取り組むことで、地域コミュニティ全体で災害に立ち向かう「協働型の地域防災力」の向上が推進されることを期待します。
---	--

(4) ワークショップ：避難所運営ゲーム (HUG) の実施

講師：千葉県個別避難計画策定アドバイザー 橋本 葉一 氏

静岡県が作成した避難所運営ゲーム (HUG) を実施しました。

千葉県の個別避難計画アドバイザー橋本氏からやり方について説明いただき、6～8人程度のグループに分かれ、具体的で実践的な避難所運営の疑似体験を行いました。



6 研修日程

時間	項目	内 容
10:00～10:05	開会	開会挨拶
10:05～10:15		自主防災組織の役割・千葉県の実況 千葉県危機管理政策課
10:15～10:40	活動事例紹介	旭市防災資料館
10:40～10:55		銚子市愛宕町第一町内会防災委員会委員長
10:55～11:15		千葉科学大学学生サークル ・学生消防隊 ・D R R
11:15～11:30		銚子防災士会会長
11:30～11:45		匝瑳市共興地区を守る会会長
11:45～12:00		旭市干潟学区自主防災会会長
12:00～13:00		休 憩
13:00～14:00	講演	講師：千葉科学大学 学長 藤本 一雄 氏 テーマ：協働型の自主防災組織による地域 防災力の強化
14:00～16:00	ワークショップ	避難所運営ゲーム（HUG）の実施 千葉県個別避難計画策定アドバイザー
16:00	閉会	閉会挨拶

令和7年度 千葉県自主防災組織リーダー等研修会 アンケート結果 令和7年11月19日

問1 本研修の満足度をおしえてください。

A 非常に満足	9
B 満足	35
C 普通	2
D 不満	1
E 非常に不満	0
計	47

問2 本研修の内容は適切でしたか。 (1)活動事例紹介

A 非常に適切	11
B 適切	30
C 普通	6
D 不適切	0
E 非常に不適切	0
計	47

問2 本研修の内容は適切でしたか。 (2)講演

A 非常に適切	13
B 適切	31
C 普通	3
D 不適切	0
E 非常に不適切	0
計	47

問2 本研修の内容は適切でしたか。 (3)避難所運営ゲーム(HUG)

A 非常に適切	15
B 適切	19
C 普通	10
D 不適切	1
E 非常に不適切	0
計	45

令和7年度 千葉県自主防災組織リーダー等研修会 アンケート結果 令和7年11月19日

問3 本研修の時間は適切でしたか。(1)活動事例紹介

A 非常に長い	3
B 長い	11
C 適切	30
D 短い	2
E 非常に短い	1
計	47

問3 本研修の時間は適切でしたか。(2)講演

A 非常に長い	3
B 長い	6
C 適切	37
D 短い	0
E 非常に短い	1
計	47

問3 本研修の時間は適切でしたか。(3)避難所運営ゲーム(HUG)

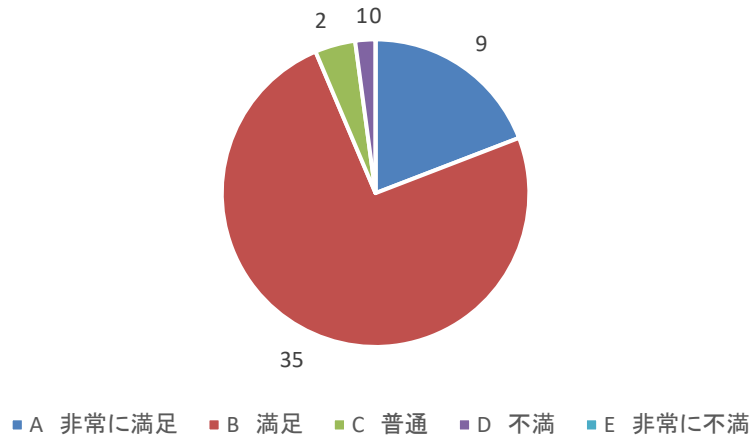
A 非常に長い	4
B 長い	2
C 適切	27
D 短い	11
E 非常に短い	3
計	47

問5 自主防災組織の活動で課題に感じていることはありますか。

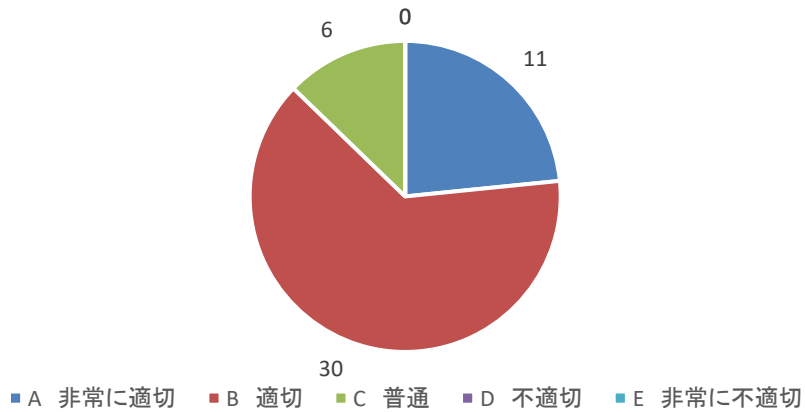
A 参加者が少ない	12
B 若い世代が少ない	28
C 活動内容の形骸化	3
D 資金・物資不足	15
E その他	2
計	60

令和7年度 千葉県自主防災組織リーダー等研修会 アンケート結果 令和7年11月19日

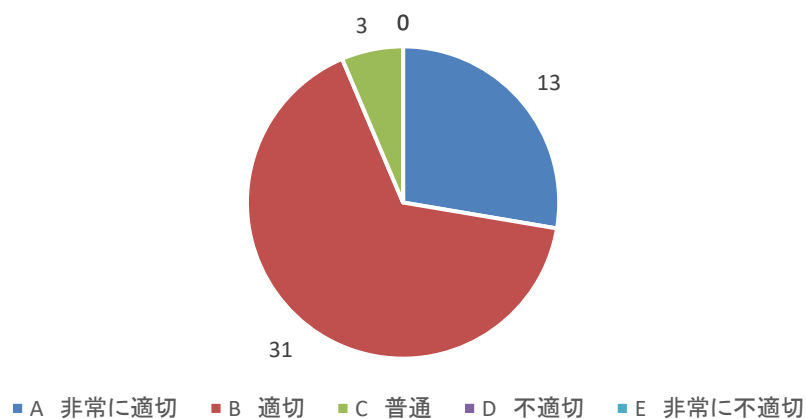
問1 本研修の満足度をおしえてください。



問2 本研修の内容は適切でしたか。
(1)活動事例紹介

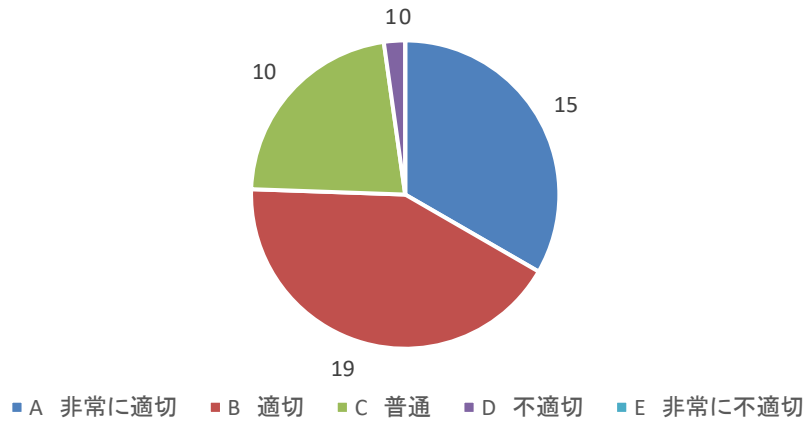


問2 本研修の内容は適切でしたか。(2)講演

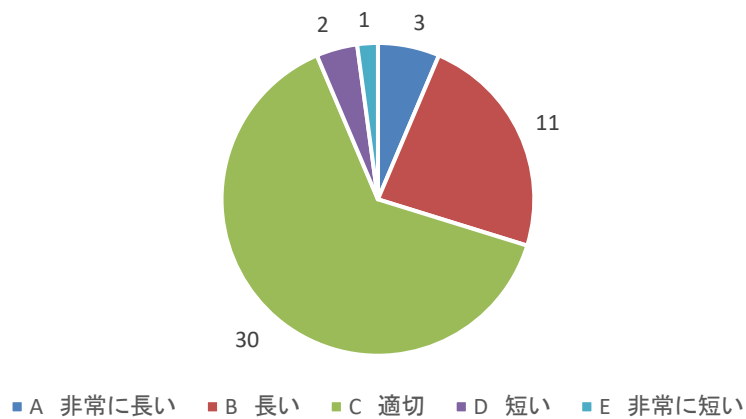


令和7年度 千葉県自主防災組織リーダー等研修会 アンケート結果 令和7年11月19日

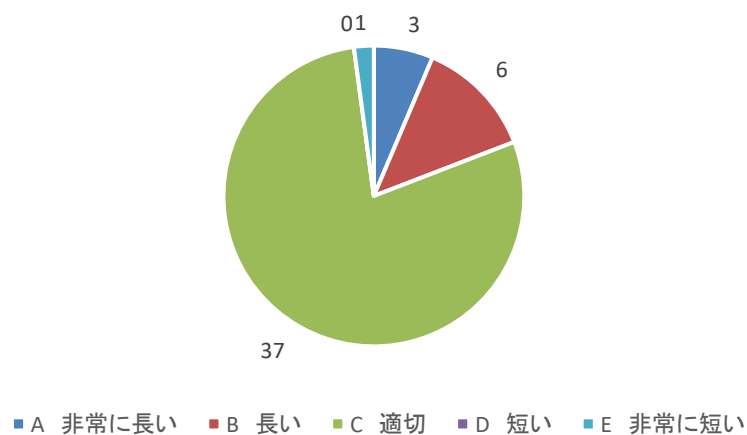
問2 本研修の内容は適切でしたか。
(3)避難所運営ゲーム(HUG)



問3 本研修の時間は適切でしたか。
(1)活動事例紹介

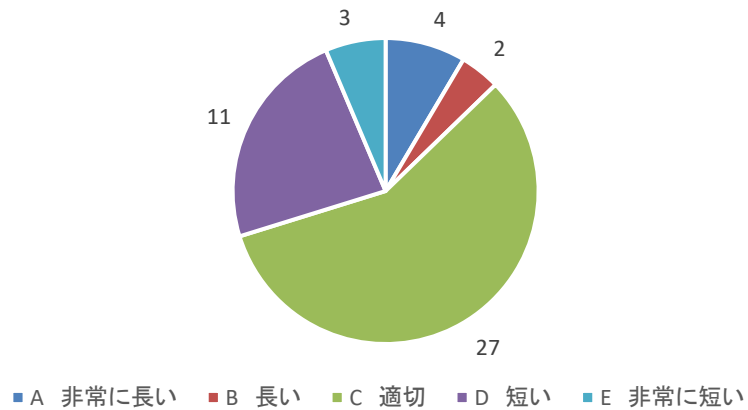


問3 本研修の時間は適切でしたか。 (2)講演

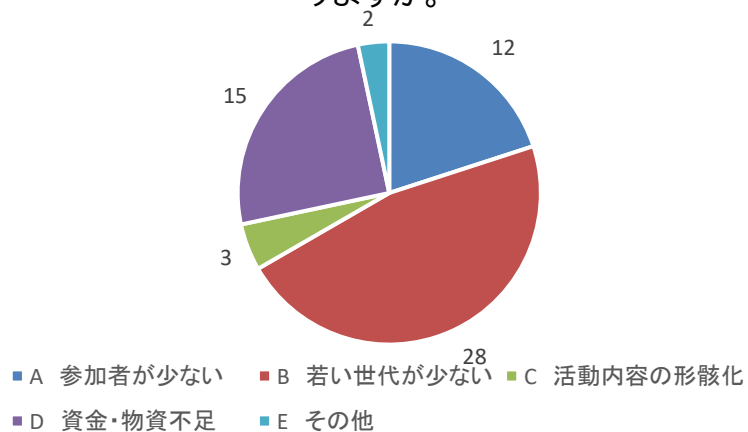


令和7年度 千葉県自主防災組織リーダー等研修会 アンケート結果 令和7年11月19日

問3 本研修の時間は適切でしたか。
(3)避難所運営ゲーム(HUG)



問5 自主防災組織の活動で課題に感じていることはありますか。



令和7年度 千葉県自主防災組織リーダー等研修会 アンケート結果 令和7年11月19日

問4 そのほか、研修に関するご意見・ご要望があれば記入してください。

- ・非常にためになりました。これからもこのような研修を増やしてください。
- ・土日の開講は可能か
- ・HUGの設定条件が不明確で進めにくかった。
- ・旭市干潟地区、災害時の井戸水提供が可能な家のマップ作成は良いと思います。うちの地区でも早急に取り組みます。
- ・HUGの後の説明が長い。
- ・各団体の災害時の役割をきちんと決めて、その勉強会や体験をやって行きたい。キントーンの活用をするために早く進めてほしい。子供の教育が一番大切です。子供がやるものには大人は興味がある。千葉科学大の学生と銚子の市民が日頃から別の日程で避難所運営をやってみたい。
- ・勉強になった。
- ・藤本先生の講義がよかった。他の先生の話も聞きたい。
- ・HUGの説明が分かり易かった。
- ・研修を受けて大変良かった。協働について考えてみます。
- ・DIGも計画してほしい。避難所運営できますか、これで。
- ・自分たちのスキルアップをしてほしい(少ない)。イオンの防災フェアは一般客に説明が少ない。
- ・午前の部、トイレ休憩を5分でいいので入れましょう。
- ・学生消防隊の5部署に小隊長が1人ずついるのかな。
- ・ベスト・帽子は他の組織(交通ボランティア等)と重複するのが多いため、私にとっては不要でした。研修は平日ではなく休日にやると会社員の方も多く参加できる。
- ・時間配分が各項目時間が少なく、せっかくの内容がもったいない感じました。
- ・特になし、ありがとうございました。

問6 自主防災組織の活動を活性化するために必要だと思うものはありますか。

- ・市民の関心
- ・若い人に参加してほしい。
- ・若い世代の参加を増やす。
- ・活動内容の形骸化→新しい活動や他行事との合同
- ・やはり資金提供だと思っています。資金のみならず、啓発物品貸出にも注目していきます。
- ・若い人の参加
- ・地域のコミュニケーションを大切に、横のつながりをつくり、啓発活動に力を入れたい。
- ・一町内ではムリ、何町内が合同にすべきでは
- ・研修が必要
- ・事前の準備が必要なことがわかった。
- ・初級者と上級者向けのイベントはあるが、中級者向けの勉強がない。
- ・働き盛り世代の参加が少なく、参加していただく方法を手さぐりしています。
- ・人材を探す。
- ・障害者への対応。
- ・世代交代、区に加入していない住民の参加促進。
- ・訓練の充実と参加者の増が必要。予算が必要。参加者への粗品が必要ではないか。
- ・顔が見える近所のおつきあい。
- ・若い力を活用して行く様、対策を取る事が必要である。
- ・PRと協働努力
- ・意識の向上が大事